
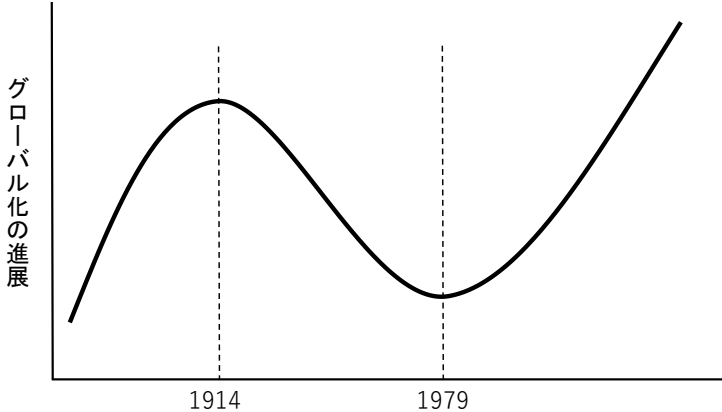


<p>経済・経営</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p><input type="checkbox"/> 多国籍企業史</p> <p><input type="checkbox"/> イギリス現代政治経済史</p>
<p><b>keyword</b></p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経営史</li> <li>■ 経済史</li> <li>■ 経営学</li> <li>■ 国際経営</li> <li>■ 国際税務</li> </ul>	<p>【1】第二次グローバル化の時代を理解するために</p> <p>1980年代以降、世界経済は第二次グローバル化の時代を迎えたといわれています。しかし、この「第二次」をより深く理解するためには、1920年代に終わったとされる「第一次」グローバル経済がどのように発展し、変質したかを学ぶ必要があります。20世紀前半の多国籍企業史から教訓を得て、現在、未来の問題を巨視的な視点から眺めようとしています。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>グローバル化の波</b></p> 
<p><b>井澤 龍</b> Ryo Izawa</p>	<p>【2】国際課税と企業社会</p> <p>多国籍企業史研究の中でも、私は「20世紀前半の英日多国籍企業と国際的二重課税問題」を主たる研究テーマとしています。国際的二重課税問題が、第一次世界大戦により深刻化した中で、①企業がいかにその事業環境に適応し、経営戦略、組織を構築したのか、②企業がいかにして税制そのものを変更させようと政治的活動を行ったのか、に研究の焦点を当てています。</p>
<p>経済学部 准教授</p>	<p>節税のための行動が、長期的に企業経営にいかなる影響を及ぼしたのか、今日のタックス・ヘイブン問題等につながるような国際課税制度がいかにして形成されたのかを探究しています。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都大学大学院経済学研究科経済学専攻 博士課程修了</li> <li>・グラスゴー大学 社会・政治科学部 客員博士研究員 (2013年11月～2014年10月)</li> </ul>	<p>【3】イギリス現代政治経済史</p> <p>多国籍企業史、国際課税制度史を研究する際には、経済・政治構造の理解が不可欠となります。特に、私はイギリス経済史の専門家として訓練を受け、研鑽を積んできました。20世紀イギリスの政治経済史をみることは、イギリス本国だけでなく、帝国、世界をみることに繋がります。いかにして今日のイギリス、世界が作り上げられていったのかをより深く理解しようと研究活動を行っています。</p> <p>また、イギリス、日本、アメリカ、オーストラリア、フランス(OECD)、スイス(国際連盟)で史料調査した経験を持ち、特にヨーロッパは21カ国訪問しました。その点からも、ヨーロッパにおけるイギリスの立場、特異性について知見を有しています。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営史学会 幹事(2017～2018年)</li> <li>・富士コンファレンス・国際交流委員(2017～2018年)</li> </ul>	
<p>【連絡先】</p> <p>ryo-izawa@biwako.shiga-u.ac.jp</p>	